

通常例会

司会

点鐘 12:30

国歌「君が代」「奉仕の理想」 斉唱

ホテル・ブエナビスタ

百瀬敏男会場監督委員

飯島司会長



【本日のゲスト】米山奨
学生：鄭 佳妮(ティ・カニ)様

今月の祝・表彰

☆会員誕生：小林あや君 ☆配偶者誕生：望月一

将君、土屋久君、小林あや君、吉池裕一君

☆結婚記念：越場達祐君、百瀬正容君、太田隆治君、
高波雄一郎君、三澤敏宏君

☆皆出席：佐々木清夫君(34年) 眞峯透君(17年)



会長挨拶 飯島会長

私は建築設計の仕事をして
いますが、現在の日本はどん
どん欧米化が進み、独自の空
間構成が見えにくくなってい
ます。そこで今日は、「日本の空
間にある 非中心・離散・曖昧と
いう考え方」についてお話ししたいと思います。

欧米の建築や都市空間は、明確な中心を持つのが基本
です。一方、日本の空間は、その場の関係性から空間が
生まれます。最近では、こうした空間の在り方を「レイヤー
構造」と表現することもあります。西洋の空間構成と日本の
空間構成、それぞれの成り立ちは、自然環境や宗教観、
文化的背景の中で育まれてきたものです。どちらにもそれ
ぞれの意味と美しさがあります。

例えば、現代では少なくなりましたが、「縁側」という空間

があります。屋内でも屋外でもない、曖昧な場所は、あると
きはくつろぎの場に、またあるときは隣人との交流の場にな
ります。障子や襖も、開け閉めによって、部屋のつながりや
広がり変化します。空間の「中心」も移っていきます。固
定された中心ではなく、流動的に変化する中心です。日本
庭園も歩くたび視点がかわるたびに風景が移り変わります。

この考え方をういて設計された建物が大阪・関西万博
の「大屋根リング」だそうです。この設計を手がけた建築家・
藤本壮介氏は、「非中心・離散」という考え方を明確に打ち
出し「多様性をリスペクトし、称賛する建築」と語っています。

また、大屋根リングは貫を使っています。貫とは、日本の
伝統的な木造建築に使われる構造部材で、柱と柱の間に
水平に通される木の棒です。水平・垂直の貫によって構造
を支えており、これは「日本建築に斜めはない」という思想
に基づいています。斜めの線は視線や空間の秩序を乱す
とされ、日本の建築では極力避けられてきました。大屋根リ
ングでは、伝統的な貫の構造美を活かしつつ、伝統的な
貫だけでは地震時に耐えられないということで、現代の接
合技術と融合させることで、巨大な木造構造物としての強さ
と美しさを両立しています。万博に行かれた際には、こんな
ことを思い出しながら大屋根リングを歩いてみてください。
きっと、他の人とは違う景色が目に映るかもしれません。

幹事報告

小林あや幹事

1. 5月のロータリーレートは1ドル142円です。
2. 次年度計画書作成にあたり、名簿欄の名前・住
所等の確認をお願いしています。変更、訂正のあ
る方は用紙に記入し至急事務局にお送り下さい。
3. 次週5/16の例会は、生蓮寺での移動例会です。
4. 例会変更は、引き続き現在どのクラブでもビジ
ター受付は実施されていません。ご了承下さい。

出席委員会報告

三澤委員

本 日5月9日 欠席6名 出席率約80.65%



[illegible]